

レッテルから解放を

日本は世界で一番、可能性に満ちた国だから

はじめは、女性向けの小さなコワーキングスペース。それと、少しでも理想の仕事に就ける人が増えますようにと始めた、デザインレックススクール。英語はできないし、ビジネススクールに通った経験も、起業家としての実績もない。

そんな、まだ何者でもない私たちが光栄なことに、マッキンゼーやカルティエが運営する世界の女性起業家アワード「Cartier Women's Initiative Awards (カルティエウーマンズイニシアチブアワード)」で、日本初のファイナリストに選んでいただくことができました。

「日本でこの時代を生きる、私たちにしか創り出せない事業で世界を驚かせたい。」

そう意気込んでの応募。本当に半泣きになりながら、アワードを運営するプロのコンサルタントたちを相手に、思考とリサーチ、そして英語でのディスカッションを重ねる毎日です。

その中で頂いたひとつのアドバイスが、心に残っています。

『日本人女性の多くは、得体のしれない呪縛の中で生きているように思う。でも、知ってる？世界の新時代はいつも、感じていた憤りや違和感を変えようという、強い想いによって創り上げられてきたのだよ。』

2018年現在、世界経済フォーラム (WEF) による男女格差の度合いを示す「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」で、日本は世界110位。G7中、圧倒的最下位という事実。これは、世界一困難とも言える社会課題ではないでしょうか。

「女だから」「男だから」「まだ若いから」「もういい年齢だから」「あの人は特別だから」「わたしは普通だから」

私たちは思いました。この国には、レッテルによる不自由な呪縛が多すぎる。

でも、もしその呪いから解放された時、そこには必ず新しい世界が創造されるはず。

なぜなら、閉じ込められた大きくて強いエネルギーがあるから。

10代で仕事や起業をする選択があれば、大学卒業後すぐに就職しない選択をしてもいい。社会に出てからも、新しい自分の可能性を広げるために学び直してもいい。誰にも縛られずに働いてもいいし、会社に入り直してもいい。女も男も、関係ない。子育てや家族のケアを優先したって、個人のキャリアは閉ざされない。小さい頃の夢への挑戦に、遅いなんてことはない。何かに失敗したとしても、何度でもチャレンジできる世界を描きなおす。

私は思います。

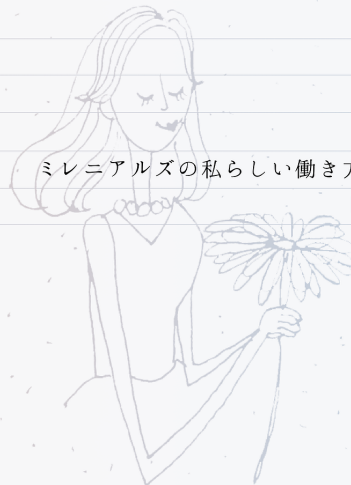
名誉あるアワードにノミネートしていただいた身ですが、「女性起業家」なんていうレッテルも、いずれは消えてしまえばいいと。

今、私たちは、日本にある世界一大きな可能性の解放に向けて、第一歩を踏み出したところです。

なにより、レッテルや思い込みで自分自身を縛り付けている呪いから、「あなた」を解放したい。

Release Yourself.

一人でも多くの人が、新しい自分に出会えますように。



ミレニアルズの私らしい働き方を叶えるプラットフォーム
「SHElikes(シーライクス)」

SHE株式会社

中山 紗彩

SHE